（別紙様式）

都道府県番号	１９
都道府県名	山梨県

（①□　②☑　③□）

※該当する観点にチェックをすること

Ⅰ．学校名及び規模

韮崎市立甘利小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	4	3	3	4	4	4	2	２４	３４	
児童数	123	119	120	122	126	122	5	737		

Ⅱ．実践研究の概要

・テーマ

意欲を持ち、主体的に学習に取り組む子どもの育成

～　個に応じた指導の工夫と改善　～

・テーマ設定の趣旨

中央教育審議会の第一次答申（1996 年 7 月 19 日）では，これからの子どもたちに必要となる〔生きる力〕の必要性が指摘されている。本校の子どもたちを見ても，この〔生きる力〕が十分に育っているとは言えない。与えられた課題と解決が容易であると予想できる課題に対しては意欲的に取り組む傾向にあるが，その中から自分たちで課題を見つけたり，解決方法を考えて取り組んだりする姿はあまり見られない。研究テーマである「意欲を持ち，主体的に学習に取り組む子ども」を育てていくことこそ，〔生きる力〕を育成していく甘利小学校のスタイルであるという認識から，研究を進めていこうと考えた。

また，同答申では，学校教育の在り方として，学力を単なる知識の量としてとらえてきた学力観を転換し，学校で教える内容をその後の学習や生活に必要な最小限の基礎的・基本的内容に厳選することの必要性を述べている。また，その厳選された基礎的・基本的内容は，子どもたちの以後の学習に支障なく進めるためにも繰り返し学習するなどして，確実に習得させなければならないとも述べている。本校でもフロンティアスクールとしての責務を自覚し，これらのことをふまえて研究と実践を進めていくこととした。

Ⅲ．実践研究の内容について

（ｉ）研究体制の工夫

◆「コース別学習」に関する基本的な考え方

「個に応じた指導」の中でも，特に「コース別学習」を行う際には，児童や保護者等に不安感を抱かせないような配慮が必要である。本校の進めようとしている学習指導は，習

熟度に応じて行うものではない。子どもたち一人ひとりの確かな学力の定着のために，一人ひとりに合った指導方法や指導体制の工夫を行っていくものである。

また，児童をいくつかのコースに分ける場合は，児童または児童と保護者の希望によることを基本とする。教師だけでコース分けを決定した場合は差別感を生むことになるだろう。特に高学年においては，児童が自分の学習の状況に応じて自分のコースを決定していく力を育てていくことも大切であると考えた。

◆保護者に対する説明

「コース別学習」で学習を進める場合には，保護者に対して指導方法・指導体制等について十分説明する必要がある。そして，「コース別学習」について理解を得ることが大切である。保護者に対して，「コース別学習」のメリットや考えられるデメリットの軽減方法等の説明をいかにするかが，取り組む上で重要であると考えた。特に，説明する事柄の中で落としてはいけないことは，次の５点である。

◇コース別学習とは，児童一人ひとりのその単元における学習状況等に応じてコースを分けるものであり，一人ひとりに応じた学習を一層進めるものであること。

◇個々の児童のコースは，児童自身または児童と保護者が最終決定すること。
（コース決定の際は，小テストの結果などのデータを保護者に提供する。）

◇一つのコース分けについては一つの単元内についてだけのものであり，年間を通じたものでないこと。

◇児童は自分の学習状況に応じてコースを変更できること。

◇それぞれのコースにおける指導方法や指導内容の概要

（ⅱ）実践研究の内容

本校で「コース別学習」を導入した際の状況を，第３学年での実践を例に説明する。

◆保護者への対応

「コース別学習」を始めるに当たって，まず最初に本校の全保護者向けに文書を配布した。〔資料１〕これにより，本校の進めようとしている「個に応じた指導」についての理解を得ようとした。

次に，学年ごとに保護者への説明を文書によって行った。指導方法や指導体制は，単元の学習内容や児童の実態を考慮するため，学年ごとに異なる。そのため，学年ごとに単元の学習内容に沿って説明する方が，保護者からの理解が得やすいからである。

〔 資 料 １ 〕

平成１４年〇月〇日

保護者　各位

韮崎市立甘利小学校
校長　櫻井八州彦

ご理解とご協力のお願い
～「個に応じた指導」について～

さわやかな季節となりましたが、いよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、本校は平成１４年度から１６年度まで文部科学省の「学力向上フロンティア事業」の「フロンティアスクール」としての指定を受けました。「フロンティアスクール」とは、子どもたち一人ひとりの興味・関心や学習の状況等に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るため、実践研究を進めるものです。

具体的には、

〇発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材の開発

〇個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

〇児童の学力の評価を生かした指導の改善

などの研究や実践を通して、本校の児童一人ひとりの確かな学力の向上をめざすものです。

本年度は、理解や習熟の程度に差が生じやすい算数の学習において、研究や実践を進めていきます。一つのクラスを複数教師で担当するティーム・ティーチング、少人数グループによる学習、児童の興味関心や学習状況等に応じたコース別学習などを研究し実践していきます。学習内容や児童の学習の状況により、子どもたちにとって最も良い指導方法や指導体制をとっていきますので、開始時期や方法等は各学年により違います。詳細は各学年担当よりお知らせいたします。また、保護者の皆様にもご協力いただかなければならないことも予想されますが、よろしくお願いいたします。なお不明な点は、学校長まで遠慮なく申し出てください。

以上、ご理解とご協力のお願いを申し上げます。

◆第3学年「わり算を考えよう」の実践

第３学年で「わり算を考えよう」の学習で「コース別学習」を実施する際に配布した文書が，〔資料２〕である。「わり算」の学習は２年生の「かけ算」に続き，以後の計算の基礎となる大切な単元である。１学期のあまりのないわり算は，殆どの児童がよく理解できたが，今回はあまりがでてくるので，つまずく児童がでてくることが予想された。そこで，「コー

ス別学習」をすることにより，どの子にもあまりのあるわり算の計算方法や意味を理解させたいと考えた。

本単元「わり算を考えよう」の指導の概要は以下の通りである。単元の導入部分のあまりのある場合のわり算の計算方法を考える学習は，基本のクラスで TT による一斉指導を行った。（５単位時間）この一斉指導では，毎時間授業の最後に診断テストを実施した。これにより，子どもが自分の学習の状況を理解できたり，教師や保護者も同様に状況を把握できたりすると考えたからである。この５回分の診断テストと学年担当教師が配布する文書〔資料２〕を保護者に提供した。これらの資料と，子どもの希望等を考慮して，子どもと保護者が相談してコース決定を行った。本単元では初めてのコース別学習であることを考慮して，２コースで３単位時間の指導を行った。

〔 資 料 ２ 〕

平成１４年○月○日

第３学年保護者各位

韮崎市立甘利小学校
第３学年主任
○○○○○

「個に応じた指導」についてのお知らせとお願い

秋も日一日と深まり，じっくり学習に取り組む良い季節となりました。
すでに学校よりお知らせしましたように，本校はフロンティアスクールとしての指定を受け，本年度は算数の学習において研究や実践を進めています。
３学年では，「あまりのあるわり算」の学習で，個に応じたきめ細かな指導をすることによって，どの子にも計算方法や意味をしっかり理解させたいと思います。９時間のうち５時間は，基本のクラスであまりのあるわり算の計算方法を指導してきました。わり算の習熟を図るために，残り４時間のうち３時間分の学習において，コース別の指導をしたいと考えています。具体的には，1・2組，3・4組 をそれぞれ２つのコースに分けて，指導を行います。
本日持ち帰った診断テストの結果などを参考に，お子さんと話し合ってコースを決定していただきたいと思います。コース別の学習内容は，以下の通りです。
１５日（火）までに，コース希望票を担任に提出をお願いします。

ぐんぐんコース
○具体物を用いた算数的な活動を取り入れて，さらにあまりのあるわり算の意味を理解できるようにする。
・具体物を分けて，立式して答えを求める。
・具体物を使って，九九で答えを求めるやり方を学習する。
・計算や文章題解決の習熟を図る。

チャレンジコース
○計算問題や文章問題の習熟を図り，学習したことを発展的に考える活動を取り入れて，さらにあまりのあるわり算の理解を深める。
・計算を早く正確にできるようにする。
・いろいろな文章問題に取り組む。
・応用問題に取り組む。

コース希望票
３年　　組　氏名（　　）
［　　］ コースを希望します。

（iii）成果と課題

実践例では、本校の「コース別学習」の実践を紹介した。実際には，各学年ごとに学習内容や子どもの実態等を考慮して，コース別学習，マスタリー・ラーニング・モデル【図】等を研究し実践した。どちらの指導方法・指導体制も，子ども一人ひとりに教師の目が届きやすく，個々の子どもに関わることができるため，「個に応じた指導」が実現できるものであることが明らかになった。

【図】マスタリー・ラーニング・モデル

また，本校のめざしている「個に応じた指導」について保護者の理解を得ることができた成果は特に大きい。

反対に，フロンティアスクールとしての取り組みを始めたことにより，多くの課題が明らかになった。特に，コース別学習は新しい取り組みであるため，子どもや保護者に戸惑いが全くなかったわけではない。コースの学習スタイルの特徴，コース選択のポイント等を，もっとわかりやすく子どもや保護者に伝えていくことが必要である。また，ティームティーチングの在り方等も一層研究していかなければならないことも明らかになった。

■TTでの授業

■甘利小ホームページ

（iv）成果の普及方策

本校ホームページを平成１４年度中に更新予定。

（http://www.amari.comlink.ne.jp）